

日本福祉大学大学院 看護学研究科 修士課程

Graduate School of Nursing Science

2026年度案内



日本福祉大学

地域に根ざし、世界を目ざす「ふくしの総合大学」

ごあいさつ

看護学研究科では、日本福祉大学が追求する“ふくし”の力（ちから）を存分に活かしながら、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康関連ニーズに十分に答えられる看護学の学問的専門性の確立に不可欠な科学的体系的研究を積み重ね、研鑽を深めています。そのため、新たな看護学の創造を探索し、社会還元のための学びを深め、専門性を活かす実践力や研究力または教育力を育めるよう、看護学の主要な7専門領域で構成して活動を展開しています。

養成人材像

看護学研究科では、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康にかかわるニーズに対して本学がめざす“ふつうのくらしのしあわせ”（Well-being for All）をふまえ、看護学の専門的探索を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する看護人材の育成をめざします。

本研究科が求める人材像

本研究科は、本学の教育理念のもとに、自らが志向する看護領域の基盤となる知識・技術を有しており、看護学の視点から学問的根拠をもって看護課題に答えるための研究力の獲得に意欲を持つてのぞめる人を受け入れます。

具体的には次のような人材です。

- ①看護学の専門領域を深く学修する上で必要となる、基礎的な知識と技術を有している。
- ②看護課題に答えるための探求心が強く、研究力を獲得する意欲を有している。
- ③看護実践の経験を活かし、看護学の体系化と発展に貢献する意欲を有している。

本研究科の特徴

個々に応じた学習プログラムを組み立てることが可能です（長期履修制度の活用、オンライン授業等）。

教員VOICE

女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについてより大きな社会的視野から理解し探求する

ウィメンズヘルス看護学は対象となる女性・母子・家族の健やかな一生を支えるために、マタニティサイクルにおける健康だけでなく、女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについて探求する学問です。女性の高学歴化、就業率の増加、未婚化・晩婚化、少子化など女性の生き方の変化がわが国の未来と密接に直結しています。そのためウィメンズヘルスをより大きな社会的視野から理解し、

個々の女性とその家族の健康に及ぼす社会的要因を認識することが重要となります。そのため女性やその家族が生活している社会背景や保健・医療・福祉の動向をふまえた上で、女性自身が健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワーメントできるための看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題に取り組んでいます。大学院生の研究活動においては、学問的探求心から修士論文をまとめるまでの一連の過程を個々に応じた支援を重ねています。ウィメンズヘルス領域におけるヘルスケアの新たな役割についていっしょに考えていきましょう。



看護学研究科長
おかだ ゆか
岡田 由香教授

学位授与の方針

人材育成方針の下、所定の期間在籍し、教育目標達成のための教育課程により学修し、所定の単位を修得するとともに、修士論文審査ならびに最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に学位（修士〈看護学〉）を授与します。

- ①看護学研究にかかわる基本的な理論や概念について深く理解し、科学的論理的思考をもって研究を遂行できる力を有している。
- ②看護実践を基盤とした自らの研究の遂行において、適切な倫理的判断に基づき、主体的・継続的に研究課題に取り組む力を有している。
- ③看護学についての高度な専門知識及び技能に関する学修や、研究から得られた成果を、質の高い看護実践に資する研究や教育に、広い視野をもって適用する力を有している。

教員VOICE

成人看護学・臨床看護学を探索する 臨床疑問を研究に！

成人看護学領域では、成人期にある人々とその家族が抱える療養上のさまざまな課題に対して、看護の視点から適切なアプローチ

方法を探求します。成人看護の理論や最新の研究成果を踏まえながら、臨床現場で直面する発達課題や健康問題について、具体的な実践方法を深く学びます。特に、急性期・慢性期にある成人の健康問題に焦点を当て、周術期看護、クリティカルケア、セルフケア支援、退院支援、再発予防といった看護実践に直結するテーマに取り組んでいます。研究活動では、院生さんが臨床や教育現場で抱く臨床疑問を研究課題へと発展させ、適切な研究デザインを用いて、次の実践に活かせるエビデンスの創出をめざしています。それらの一連の研究のプロセスを個々の関心や背景に応じて支援します。日々の実践の中で感じている違和感や課題を、研究というかたちで言語化してみませんか。次の実践につながるよう共に考えていきましょう。



看護学研究科
おのの あきこ
大野 晶子教授

教育課程

看護学研究科では、看護学の専門的探求を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する人材を育成するために、7つの看護学専門領域で構成しています。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		履修要件
			必修	選択	
共通科目	看護学研究方法特論Ⅰ	1前	2		10単位以上（必修6単位含む）
	看護学研究方法特論Ⅱ	1後	2		
	看護教育特論	1前	2		
	看護理論特論	1前		2	
	家族支援特論	1後		2	
	保健医療福祉システム特論	1前		2	
	地域協働特論	1後		2	
	国際フロンジック看護学特論	1後		2	
専門科目	看護方法学領域	看護方法学特論	1前	2	12単位以上（選択する看護学領域の8単位を含む）
		看護方法学実践論	1後	2	
		看護方法学特論演習	1通	4	
	成人看護学領域	成人看護学特論	1前	2	
		成人看護学実践論	1後	2	
		成人看護学特論演習	1通	4	
	精神看護学領域	精神看護学特論	1前	2	
		精神看護学実践論	1後	2	
		精神看護学特論演習	1通	4	
	地域看護学領域	地域看護学特論	1前	2	
		地域看護学実践論	1後	2	
		地域看護学特論演習	1通	4	
	老年看護学領域	老年看護学特論	1前	2	
		老年看護学実践論	1後	2	
		老年看護学特論演習	1通	4	
	ウイメンズヘルス看護学領域	ウイメンズヘルス看護学特論	1前	2	
		ウイメンズヘルス看護学実践論	1後	2	
		ウイメンズヘルス看護学特論演習	1通	4	
	小児看護学領域	小児看護学特論	1前	2	
		小児看護学実践論	1後	2	
		小児看護学特論演習	1通	4	
研究科目	特別研究	1通～2通	8		8単位
修了要件		30単位以上			

教育課程の編成方針

本研究科では、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群で教育課程を編成しています。

- ①共通科目では、看護学の体系化に資する研究のあり方や方法を学ぶ科目や既出の看護理論や看護教育などの研究を進める上での理論的基盤となる科目を配置する。
- ②それぞれの看護専門領域の独自性に立脚した探求に加え、関連領域との連携協働の視点をも併せ持つ研究へと発展させていくための基礎的な知識を修得する科目を配置する。
- ③専門科目では、7領域の看護学の研究を支える科目として、それぞれに、特論／実践論／特論演習の各科目を配置する。
- ④研究科目では、研究目的の明確化から研究デザインの決定・計画とその検証作業の実施、論文執筆までの一連の過程を通じて、研究力のみならず、その成果を広い視野をもって、種々、適用する力を培うことをめざす科目として配置する。

科目紹介

保健医療福祉システム特論

本講義のテーマは、厚生行政の機能と政策の仕組みについて学ぶことです。①ポリシー、②ニーズ、③社会資源、④厚生行政、⑤保健医療福祉制度をキーワードに、世界及び日本で展開されている保健・医療・福祉政策の基本的考え方と、政策決定過程とその影響要因を知るとともに、実際の医療などに関する今日的課題や将来予測まで幅広く学びます。保健医療福祉政策をめぐるさまざまな課題は看護にも関連しています。政策過程における科学的根拠の重要性、政策分析から新たな政策提案、また保健医療福祉政策を通じて看護についての課題解決策を理論的に提案できる力を培います。

看護方法学実践論

専門職としての看護職が実践する日常生活援助と指導技術に焦点をおき、それらケア技術の実証研究と開発研究を題材に分析検討を重ね、ケア技術の知識と理解を深めるとともに、ケア技術開発への基盤力を培います。具体的には、さまざまな看護展開場面を題材として、看護方法学特論で学習した諸理論を用いて深く分析し、実践のあり方・技術の捉え方・看護管理の進め方などを立体的複合的に検討して看護活動そのものの在り方と今後の展望を考察します。ともすれば、狭義の技法と捉えやすい看護「方法」を広義に捉え、看護活動の本質に迫ることにより、自身の看護論・実践論を明確にできる力を培います。

精神看護学特論

本講義では、現代社会における精神保健医療福祉の課題と実践を「リエゾン」「コミュニティ」という2つの視点から統合的に捉え、精神保健医療福祉の専門性を深化させることを目的とします。多様な生活環境やライフステージにおけるメンタルヘルスケアの実践的支援方法を学びます。リハビリ、ホームケア、トラウマインフォームドケア、マインドフルネス、発達障がい、暴力と倫理、家庭・学校・職場・病院など多様な文脈における精神的支援を取り上げ、地域との接点を意識した多職種連携の可能性も探求します。さらに、女性や子どもとその家族に焦点を当てた養育支援学を通じて、世代間の精神的ケアの視座を広げます。各トピックにおいては、最新の研究知見を学び、精神保健医療福祉領域における臨床の実践に貢献できる基礎力を育成します。

■特別研究担当者・テーマ

担当者	テーマ	教員紹介
新美 綾子	看護技術・看護教育及び災害看護活動の内容と効果評価に関する課題について、研究指導します。	
小笠原 ゆかり	看護技術・看護教育の方法と効果評価に関する課題について、研究指導します。	
白尾 久美子	急性期にある患者およびその家族に対する早期回復をめざした看護ケアや心理的支援に関する課題について、研究指導します。	
大野 晶子	慢性疾患をもつ患者および家族に対するセルフマネジメント支援や不確かさへの援助、全身疾患が影響を及ぼす口腔ケアの課題について、研究指導します。	
古澤 亜矢子	精神看護および保健に関する課題の中で特に家族・職場・医療・地域社会等との関係性によって生じる精神的問題への看護に関する課題について、研究指導します。	
水谷 聖子	地域・在宅、公衆衛生、産業看護など地域で生活する人々のwellbeingをめざす地域看護学領域における看護の質向上を図る課題について、研究指導します。	
森 礼子	行政保健師活動や健康施策の視点を踏まえ、公衆衛生看護領域における地域住民の健康保持・増進の課題について、研究指導します。	
岡田 由香	ウィメンズヘルス領域における実践的ケアの質向上を図る課題について、研究指導します。	
大橋 幸美	妊娠期から子育て期における母性・父性・親性と家族への援助、多様なニーズ（子ども虐待、多胎児、外国人、里親等）を持つ家族への看護等について研究指導します。	

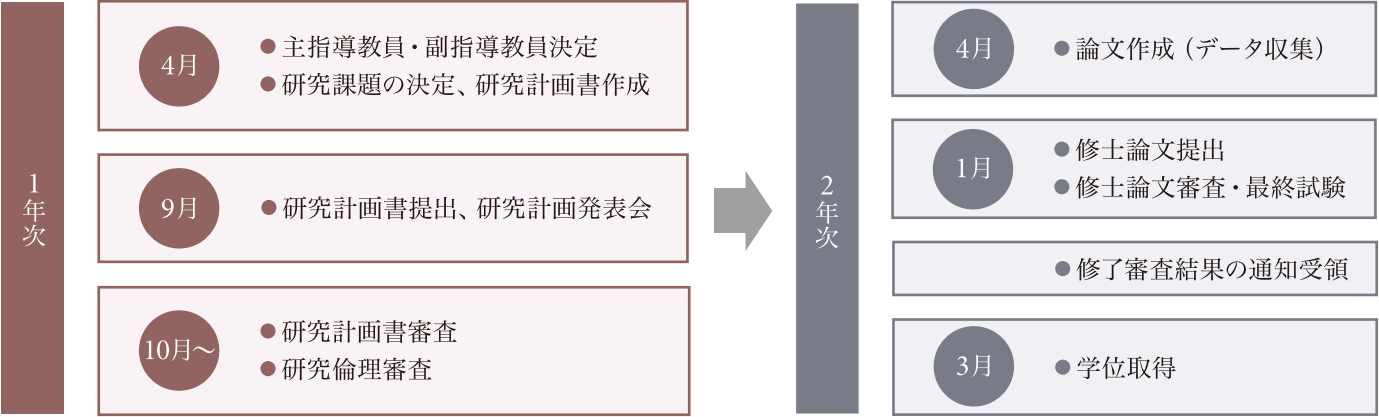
■教員紹介

長砂 順子		初田 真人		藤田 佳子	
-------	---	-------	---	-------	---

修士論文テーマ

- ・就労継続している妊婦の身体的変化のうけとめとその生活調整行動
 - ・術前外来・術前訪問を通した手術室看護師による術前看護の明確化
 - ・重症心身障がい児の特別支援学校の医療的ケア場面における保護者の期待
 - ・看護基礎教育におけるアロマセラピー教育の現状と教員の認識の分析
 - ・急性期病院における新人看護師の就業継続に関する看護師長の認識
 - ・要保護児童対策調整機関における保健師の活動
 - ・統合失調症患者の治療薬選択における精神科看護師の支援
- ・中途採用看護師の職場継続のための自分の努力
 - ・35歳未満就労女性の月経随伴症状の実態調査
 - ・3年課程看護師養成所に勤務する熟達教員の授業力量に関する研究
 - ・院内トリアージにおけるトリアージナースによる第一印象の実態
 - ・小児看護学実習における学生のコミュニケーション・スキルの実態と関連要因
 - ・コーディネーターを担う外回り看護師の手術安全チェックリストの運用実態の明確化

■研究指導に関する流れ



大学院での学びを活かし 臨床の中でも看護研究に取り組む

婦人科・乳腺外科病棟の新人看護師として、日々勉強の毎日を送っています。

自身の経験を研究動機にした卒業論文から、働く若い世代の女性における健康課題について知見を深めたいと思い、本学大学院に進学しました。大学院在学中は多数の文献を読む中で、さまざまな視点で女性の健康課題を明らかにした先行研究に触れ視野を広げることができました。それと同時に、自身の研究疑問を明確化してゆく過程に悩み、文献検討を何度も繰り返しました。本調査の後にも限られたデータを分析し、その結果から看護の視点にどのように活かすか模索しながらの論文執筆でした。その中で学部生時代からお世話になった先生方からは丁寧なご指導や助言をいただき、修士論文を完成させることができました。今後は大学院で学んだ研究方法の基礎や文献の読み方といった研究のための知識を活かし、臨床の中で研究疑問を見つけて看護研究として取り組みたいと考えています。



はたの まき
畑野 真希さん

2023年度修了

国立病院機構大阪
医療センター 看護師

より深い実践の重要性を感じ進学 チーム医療にも貢献できる学びを得る

看護師としての臨床経験を積み、より深い知識とエビデンスに基づいた実践の重要性を感じ、内科脳外科 急性期病棟で働きながら日本福祉大学大学院看護学研究科に進学しました。仕事と学業の両立は決して簡単ではありませんでしたが、学びを実践に活かすことで、より広い視野を持つことができました。大学院では『小児看護学実習における学生のコミュニケーション・スキルの実態と関連要因』について研究し、諸先生方には丁寧な指導をいただくことで量的研究を学ぶことができました。大学院での学びは、自分の成長だけでなく、患者さんやチーム医療にも良い影響を与えると実感しています。今後も医療現場での実践と研究を両立させながら、より良い看護の提供をめざし後輩の育成にも参加したいと考えています。これから進学を考えている方には、ぜひ新たな挑戦を楽しんでほしいと思います。



いけだ よしえ
池田 佳江さん

2024年度修了

JA愛知厚生連 知多
厚生病院 内科脳外科
急性期混合病棟 看護師

大学院生VOICE

長期履修制度を利用して進学 目標は精神科看護の質向上

学生の頃より心のケアに魅力を感じ、「精神看護学」領域で専門性を高めたいと志すようになり、外科病棟を3年経験した後に精神科の単科病院に転職しました。精神科における看護は、コミュニケーションによるケアが重きに置かれているのが特徴であり、試行錯誤をしながら患者様と信頼関係を築いていくことにとてもやりがいを感じていました。中間管理職の立場になった際に、専門性の高い患者ケアやスタッフの教育が十分に行えていないことを実感し、より専門性を高めたいという思いから大学院進学を決意しました。大学院では、精神科看護の質向上のための研究を「モチベーション」の視点から科学的に追究したいと考えています。先生方や大学院の仲間とのディスカッションから新たな気付きがあり、学ぶことの楽しさを実感しています。長期履修制度を利用して子育てと両立しながら、研究課題に対応できる研究力を身につけることを目標に研鑽を積みみたいと考えています。



くろさわ あかね
黒澤 茜さん

2024年度入学生

臨床現場と大学院での研究をつなげ 多角的なスキルアップをめざす

私は本学の看護学部を卒業し、HCUに勤務して5年目を迎えました。日々の看護実践を通して、重症度の高い患者への対応やご家族との関わりの中で、判断に迷う場面や知識の不確かさを痛感することが少なくありませんでした。こうした経験から、看護をより深く学び、自らの実践力を高めたいと考え、日本福祉大学大学院への進学を決意しました。大学院では、院生仲間や先生方とのディスカッションを行う機会が多く、自分の考えを深めるとともに、学問的な観点や多角的な視点を得ることに繋がっています。現場で感じた疑問から研究課題を明らかにするために先行研究を読み深め、修士論文の作成に向けて日々努力しています。修了後は、大学院での学びや研究で明らかになったことを臨床現場に還元することで、科学的根拠に基づいた質の高い看護の実現に貢献していきたいと考えています。



おおこうち こうへい
大河内 康平さん

2025年度入学

JA愛知厚生連
安城更生病院 看護師

施設・設備



図書館



エントランスロビー



院生室

科目等履修制度について

2024年度より科目等履修制度が導入されました。看護学研究科で開講している科目を先行して履修することができ、より具体的に大学院での学びをイメージいただくことが可能です。科目等履修生として修得した単位は入学後に認定され、修了要件の単位に充当することができます。(上限10単位まで)

看護実践研究センター

広く学べるさまざまな研修プログラム

年間を通して、看護の研究方法や看護倫理、多職種連携などをテーマとした看護職向け研修プログラムを提供しており、大学院生も参加できます。また、臨床現場で行う個別の研究に関する相談にも応じています。



詳しくはHPを
ご覧ください

看護学研究科の概要

◎名称／看護学研究科看護学専攻 ◎学位名称／修士(看護学) ◎入学定員／10名 ◎場所／東海キャンパス
◎学費／入学金 200,000円(本学出身者100,000円) 授業料 800,000円 施設維持費 150,000円 ◎授業時間／[月～金曜日] 3～6限

長期履修制度

標準修業年限の2年では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、あらかじめ計画的に3年間での修学を認める制度です。
本制度の適用を申請し、それが認められた場合の授業料は、通常の2年間分の授業料を3年間で分割納入することができます。
なお分割納入の方法としては、1年目は通常授業料、2・3年目に通常授業料の半額ずつを分割する形となります。

教育訓練給付金制度

雇用保険の給付制度で、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)又は一般被保険者であった方(離職者)が入学し修了した場合に、在学中に支払った学費の一定割合に相当する額がハローワークから支給される制度です。

※教育訓練給付金の支給要件の照会等は、[厚生労働省のホームページ](#)にてご確認ください。

入学試験

入学試験志願者は、必ず事前に相談してください。事前相談の日時につきましては、下記の期日までに日本福祉大学東海事務室看護学研究科担当へ電話またはメールにて連絡してください。

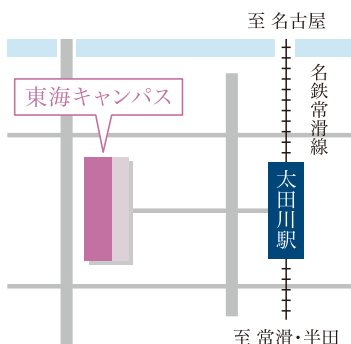
[第1期] 入試の場合 …… 2025年9月1日(月)～2025年10月10日(金)

[第2期] 入試の場合 …… 2025年11月25日(火)～2026年1月5日(月)

入学試験区分	日本福祉大学看護学部 特別推薦入学試験	一般入学試験	社会人特別選抜入学試験
出願期間	[第1期] 2025年10月10日(金)～10月24日(金) [第2期] 2026年1月9日(金)～1月23日(金)		
試験日	[第1期] 2025年11月9日(日) [第2期] 2026年2月8日(日)		
合格発表日	[第1期] 2025年11月15日(土) [第2期] 2026年2月14日(土)		
選抜方法	「小論文」、「面接」により総合的判定します。 ●「小論文」 選択した看護学領域に関する設問 ●「面接」 選択した看護学領域および研究テーマに関する事項	「小論文」、「面接」により総合的判定します。 ●「小論文」 看護学分野全体の知識を問う共通設問と、選択した看護学領域に関する設問の2問 ●「面接」 選択した看護学領域および研究テーマに関する事項	「看護実践報告書」による書類審査と、「小論文」、「面接」により総合的判定します。 ●「小論文」 選択した看護学領域に関する設問 ●「面接」 選択した看護学領域および研究テーマに関する事項
試験会場	東海キャンパス		

詳細は、以下ホームページをご覧ください。

東海キャンパスへのアクセス



※大学院生は申請の上、自家用車での通学も可能となっており、キャンパス地下駐車場をご利用いただくことができます。

●お問い合わせはこちらまでお願いいたします。

日本福祉大学東海事務室 看護学研究科担当
〒477-0031 東海市大田町下浜田1071番地

TEL:0562-39-3811(代表) FAX:0562-39-3281

e-mail:kango-g@ml.n-fukushi.ac.jp <https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/>

